



## 宿題

しゅくだい



夏休みが始まってすぐの頃、小学生の娘たちは、「宿題を七月中に終わらせるんだ！」と意気込んでいましたが、その意欲はどこへやら。友人の家に遊び出かけたり、家の中にいてもダラダラと動画を見て過ごす毎日です。気が付けば、長い夏休みも終盤にさしかかり、宿題の提出日が近づいてきました。

「次の登校日には提出だったけど、宿題は終わったの？」

机に座って勉強する姿はほとんど見なかったので、予想通り、いい返事が聞こえることはありませんでした。

「お母さんに宿題を見せて？」 いざ蓋を空けてみると、どこかにいってしまい見つからないプリントがあったり、表紙の名前だけ書いて、ほとんど手つかずのままの宿題が出てきました。

後回しにしてしまった宿題を、どうすれば早く終わらせることができるのかと、子どもなりに考えたのでしょうか。プリントの数ページにわたり、二才の妹の元気いっぱいな落書きが、絵描かれています。そこに書き加えられた、娘の一言。

「いもうとがらくがきをしたので、でもませんでした。」

には、思わず笑ってしまいました。

「らくがきはしてあるけど、間だいも見えるし、答えも上から書けます。しっかりこのページもやりましょう。母より」と、その一言に私も返事を書き添えました（笑）。

さすがに、このまま子どもに任せておくのはいけないな、と思い私も子ども達と一緒に机に座って、夏休みの宿題との悪戦苦闘が始まりました。ほとんど答えも教えてあげているし、集中して書けばすぐに終わるのに、子どものやる気スイッチが入らず、一向に前に進みません。イライラしてしまい

「ダラダラする暇があったら、さっさと終わらせなさい！」

「これじゃ読めない、もっと丁寧に書きなさい！」

「お菓子は宿題が全部、終わってから！」

ついつい小さなことにも、口うるさく叱りつけてしまいました。でも冷静になったとき、私の小学生の頃を思い出してみると、夏休みの宿題をいつも後回しにしており、同じように母から叱れられていました。大人になった今も、締め切りが先の仕事や家事でさえも後回しに。本を読んで学びを深めたり、予習、復習といった、机に座っての勉強は、ほとんどしていません。

子を叱りながらも、大人になった私も同じようなことしてるな、と私の恥ずかしい姿に気づかされます。もし子どもから

「お母さんの宿題はしなくていいの？」と聞かれると

「ごめんなさい」としか言えません。

子どもを叱る前に、我が身を反省しながら、なるべく穏やかに、にこやかに日々を過ごしていきたいものです。